

第2回青田廻り資料

平成30年7月
富山農林振興センター
なのはな農業協同組合

～「H30JAなのはな米品質向上運動」実施中～
産地として選ばれる“なのはな米”1等比率95%以上を目指して

今年のコシヒカリの幼穂形成期(幼穂長2mmの頃)は、7月11日頃と推測されます(5月12日田植えの場合)。

幼穂長や草丈、葉色など稲体の状況を的確に把握し、適切な穂肥施用や水管理により、米品質低下(白未熟粒の発生)を防ぎましょう。

コシヒカリの生育状況

草丈：平年並み 茎数：平年より多い 葉色：平年並み～濃いめ

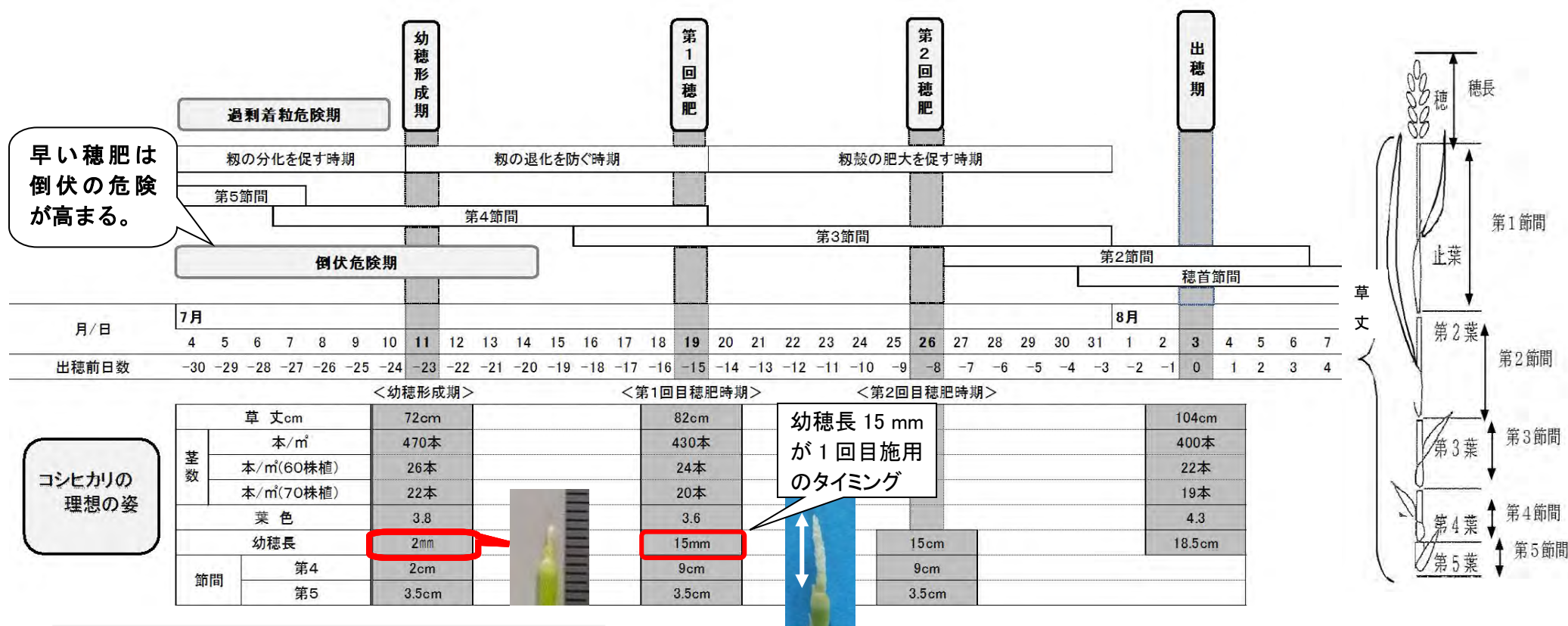
○コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内コシヒカリ生育基礎ほ(8カ所) 7月9日調査平均

	田植日	草丈	株当たり茎数	m ² 当たり茎数	葉齢	葉色	幼穂形成期
H30	5月12日	70.5cm	25.6本/株	487本/m ²	12.2	4.0	(7月11日)
H29	5月13日	67.4cm	25.0本/株	455本/m ²	12.0	4.0	7月11日
平年	5月10日	69.6cm	24.0本/株	449本/m ²	12.2	3.9	7月11日

※平年 平成20年～29年の平均値

○コシヒカリの幼穂形成期頃の稲姿



1 コシヒカリの穂肥施用

① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

出穂7日前(7月25日頃)に必ず葉色を確認しましょう。

このときに葉色が3.8(砂壤土は4.0)以下の場合は、出穂7日前までに「追肥3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

登熟期間中の活力維持!

② 分施栽培の場合

★生育量別穂肥の目安(肥料:追肥3号)

	幼穂長15mmの生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥		備考
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)	
目標	82cm以下	3.6	葉がピンと立つ	7月20日頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10～13kg (砂壤土13kg)	
やや過剰	82～87cm	3.8程度	葉がやや垂れ気味	7月23日頃	7kg以内		10kg	1回目穂肥を3日程度遅らせ、穂肥量も減らす
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ施用しない	施用しない		出穂7日前(7/25頃)	7～10kg	

※最終の穂肥は出穂3日前までに終わらしましょう。

2 てんこもりの穂肥施用

① 肥効調節型基肥資材を施用している場合

出穂7～10日前（7月末～8月初頃）に**必ず葉色を確認**し、このときの葉色が4.2以下の場合は、「追肥3号」を10kg/10a施用しましょう。

② 分施栽培の場合

幼穂形成期は5月9日頃の田植えで、7月16日頃と予想されます。

1回目穂肥は、幼穂長1～2mm頃が施用の適期となりますので、遅れないようにしましょう。

○穂肥施用の目安（肥料：「追肥3号」）

穂肥1回目施用時の生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥	
幼穂長	茎数（株当り）	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
1～2mm	21～25本	4.0～4.2	7月15日頃	10kg/10a	1回目の10日後	12kg/10a

3 今後の水管理

《幼穂形成期から出穂期まで》
～飽水管理で『うわ根』を活性化！～

足跡に水が残る程度になったら入水し、水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》

～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～

出穂期から20日間は**湛水状態**（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。

幼穂形成期から出穂期まで「飽水管理」

収穫5～7日前まで「間断かん水」



4 病虫害防除

今年からカメムシ重点対策により、必ず、傾穂期に防除しましょう！！

本年も、**斑点米カメムシ類**が多発しております。

畦畔の草刈りを徹底し、全品種2回の**基本防除を徹底**しましょう！！

○防除時期の目安（7月9日現在の見込みです）

	防除時期 （主な対象病害虫）	薬剤名	散布量 (kg/10a)	てんたかく (7/21出穂)	コシヒカリ (8/1出穂)	てんこもり (8/8出穂)
粉剤	穂揃期 (いもち病・カメムシ)	ビームキラップジョーカー粉剤DL	3～4	7/23～25	8/3～5	8/10～12
	傾穂期 ※1回目散布の7日後 (カメムシ)	トレボンスター粉剤DL	3～4	7/30～8/1	8/10～12	8/17～19
粒剤	出穂10日前 (いもち病・カメムシ)	フジワンラップ粒剤	4	7/11頃	7/22頃	7/29頃

《留意事項》

- ・防除の実施にあたっては、必ずほ場の生育状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

○粒剤（フジワンラップ粒剤）を効かせるコツ

- ・出穂10日前頃に水深5cm程度の状態で散布し、5日間湛水を保ちます。
- ・稲が田水に溶けた薬剤を根から吸収するため、湛水が必要です。
- ・薬剤の大半は、散布後3日程度で吸収されます、**少なくとも3日間は浅い湛水**を守りましょう。
なお、田面が露出した場合は静かに必要な分だけ入水（深水は濃度が薄まり逆効果）しましょう。